**《Lesson 4》 「丁寧な命令文」と「提案・勧誘を表す命令文」**

　また、命令文には以下の内容を表すことができます。

**(1) 丁寧な命令（依頼）**

＜例＞ 窓を開けてください　　名前を書いてください

**(2) 提案・勧誘**

＜例＞ サッカーをしましょう　　ここで食べましょう

**(1) 丁寧な命令文（依頼）**

丁寧な命令文は 「～してください」「～しないでください」と言いたい時に使われます。ここでポイントとなるのが please という単語。これを肯定文・否定文関係なしに命令文に足してあげれば完成となります。足す場所は、文頭が多いのですが、文の最後にカンマを伴って足すこともできます。

**【丁寧な命令文：基本の形】**

**一般動詞の原形**

**be**

**Please ＋　 ＋ ～.**

　　　(～してください / ～でいてください)

**一般動詞の原形**

**be**

**Please ＋ don’t (do not) ＋ 　＋ ～.**

（～しないでください / ～でいないでください）

＜例＞　Please come here at noon. （あるいは、Come here at noon, please.）

＜正午にここに来てください＞

Please be quiet. （あるいは、Be quiet, please.）

＜静かにしてください＞

Please don’t touch this. （あるいは、Don’t touch this, please.）

＜触らないでください＞

Please don’t be noisy. （あるいは、Don’t be noisy, please.）

＜うるさくしないでください＞

**【作り方】**

**ステップ⓵：** 命令文を作る。

**ステップ②：** 文の先頭に **Please** を足す（あるいは、文の最後に **, please**を足す）。

**＜例1＞「正午にここに来てください」という文を作る場合。**

**ステップ⓵：** 命令文を作る。　「正午にここに来て」

　　 Come here at noon.

**ステップ②：** 文の先頭にPleaseを足す（あるいは、文の最後に , pleaseを足す）。

　　 Please come here at noon. (Come here at noon, please)

**＜例2＞「うるさくしないでください」という文を作る場合。**

**ステップ⓵：** 命令文を作る。　「うるさくしないで」

　　 Don’t be noisy.

**ステップ②：** 文の先頭にPleaseを足す（あるいは、文の最後に , pleaseを足す）。

　　 Please don’t be noisy. (Don’t be noisy, please)

**(2) 「提案・勧誘」を表す命令文**

「提案・勧誘」を表す命令文は 「～しましょう」「～しないでおきましょう」と言いたい時に使われます。今回使われるのは let’s という単語。肯定文（～しましょう）の場合、“let’s + 命令文” で完成なので、簡単なのですが、否定文の場合　“let’s not + 命令文” となり “let’s don’t ＋ 命令文” にはならないので注意する必要があります。

**【提案・勧誘を表す命令文：基本の形】**

**一般動詞の原形**

**be**

**Let’s ＋　 ＋ ～.**

(～しましょう)

**一般動詞の原形**

**be**

**Let’s not ＋ 　＋ ～.**

（～しないでおきましょう）

＜例＞　Let’s go to the station. ＜駅に行きましょう＞

Let’s not use this computer. ＜このパソコンは使わないでおきましょう＞

**【作り方】**

**ステップ⓵： 肯定の**命令文を作る。

**ステップ②：** 「しましょう」（肯定文）の場合は、**Let’s** を文頭に足す。

　　　 　　　「～しないでおきましょう」（否定文）の場合は、**Let’s not** を文頭に足す。

**＜例1＞「駅に行きましょう」という文の場合。**

**ステップ⓵：** 肯定の命令文を作る。　「駅に行って」

　　 Go to the station.

**ステップ②：** 「しましょう」（肯定文）の場合は、Let’s を文頭に足す。

　　 Let’s go to the station.

**＜例2＞「このパソコンは使わないでおきましょうという文の場合。**

**ステップ⓵：** 肯定の命令文を作る。　「このパソコンを使って」

　　 Use this computer.

**ステップ②：** 「～しないでおきましょう」（否定文）の場合は、Let’s not を文頭に足す。

　　 Let’s not use this computer.

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行って

ください。